

〔様式5〕令和7年度 羽村市立 栄小学校 学校経営報告（学校評価報告表） 学校教育目標 ◎よく考えて学ぶ子 ○明るくじょうぶな子 ○助け合って働く子

【目指す学校像】○子供一人一人がよき可能性を發揮し、未来を切り拓くための力を身に着ける学校 ○保護者・地域の方から信頼される学校 ○「チーム」としての力を生かし、主体的に課題を解決する学校

【目指す児童像】○自分たちの学習や生活等をよりよくするよう課題をもち、その課題解決のための方法を自分なりに工夫し、最後まで根気強くやり抜く子供
○体力向上を目指すとともに、心身ともに健康でたくましく、爽やかな挨拶と元気な返事ができる子供
○一人一人の意見を尊重し、みんなと協力しながら奉仕する心をもって自らすすんで働く子供

【目指す教師像】○挑戦…変化を前向きに受け止め、目標に向かって挑戦する教職員 ○相手意識をもって深い信頼関係を築く教職員 ○連携・協働して、チームに貢献する教職員

前年度までの学校経営上の成果と課題【成果】・主体的・対話的で深い学びとウェルビーイングの向上を目指した授業改善 ・縦割り班活動「なかよし班活動」の実施と充実 ・運動の日常化を図る取組の推進
(簡条書きで簡潔に) 【課題】・特別支援教育の推進 ・いじめ防止対策の推進 ・地域の教育資源や外部人材等のさらなる活用

3つの施策	中期経営目標(施策の内容)	「取組・努力」の評価基準(学校・教職員の姿勢、取組状況)	評定	3学期評定	実態や改善に向けた意見	「成果」の評価基準(児童・生徒の変容)	評定	3学期評定	実態や改善に向けた意見				
小中一貫教育を柱とした特色ある教育の推進	①小中一貫教育の推進	「家庭学習の充実に向けて取り組むことができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	教員の肯定的な回答は95%(中間評価比と同じ)であった。日頃から教員は、学習の進捗と家庭学習を連携させるよう取り組んできたが、児童の実態に応じた指導に個人差がみられた。家庭学習ウィークにおいて、重点的に指導したり、高学年では自主学習ノートを推進しているため、来年度も取組を継続し、家庭学習の充実を目指す。	「家庭学習がだんだんと取り組めるようになっていく」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が87%(中間評価比1%増)であった。学級によって大きな差がみられた。全クラスで同じように家庭学習の充実を目指した取組を推進し、児童が家庭においても自主的・主体的に学習に取り組める習慣を身に付けられるよう、教員間での連携、家庭との連携を充実させていく。				
		「家庭学習の充実に向けて取り組むことができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3			「家庭学習がだんだんと取り組めるようになっていく」の肯定的な回答が70%以上である。	3						
		「家庭学習の充実に向けて取り組むことができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2			「家庭学習がだんだんと取り組めるようになっていく」の肯定的な回答が60%以上である。	2						
		「家庭学習の充実に向けて取り組むことができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1			「家庭学習がだんだんと取り組めるようになっていく」の肯定的な回答が60%未満である。	1						
	②確かな学力の定着	「分かる、楽しい、学ぶ喜びのある授業の実現を目指し授業改善ができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	教員の肯定的な回答は100%(中間評価比17%増)であった。授業改善を進め、よりよい取組ができたという回答も多くの肯定的な回答が中間評価より高くなった。一人一台端末やモータを活用して、一人一人の子供たちが「分かる、楽しい、学ぶ喜びのある授業」を実践できるよう、可視化や校内研究等を進めていく。	「授業は、分かり、楽しいと思う」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が88%(中間評価比1%減)であった。学級によって肯定的な回答に差が見られたので、教科担任制を通して指導の統一を図り、教員の授業力の向上につなげていく。ICTや一人一台端末を活用し、さらに、個別最適な学びや、協働的な学びの実現を図り、「分かり、楽しい」と感じる授業を目指していく。				
		「分かる、楽しい、学ぶ喜びのある授業の実現を目指し授業改善ができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3			「授業は、分かり、楽しいと思う」の肯定的な回答が70%以上である。	3						
		「分かる、楽しい、学ぶ喜びのある授業の実現を目指し授業改善ができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2			「授業は、分かり、楽しいと思う」の肯定的な回答が60%以上である。	2						
		「分かる、楽しい、学ぶ喜びのある授業の実現を目指し授業改善ができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1			「授業は、分かり、楽しいと思う」の肯定的な回答が60%未満である。	1						
	③特色ある教育の推進	「児童に【やればできる・伸びている・役立っている】ことを感じさせる声掛けや指導ができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	教員の肯定的な回答は94%(中間評価と同じ)であった。様々な場面で児童のよい行いを認めたり、称賛したり、よさを伝えられたという回答も多かった。また、スモールステップを設定していくという回答も多かったが、よくわからないとの回答もあったため、来年度も継続して、児童の自尊感情が高められるよう、温かい声掛け等を行い、指導をしていく。	「なかよし班活動などで、楽しく積極的に活動できた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が88%(中間評価比6%減)であった。児童数が少なくなり、なかよし班活動での高学年の負担が大きくなってきたことが考えられる。様々な行事や取組を再考し、児童が自己効力感をもてるよう、来年度も、学校全体で計画的に学校行事や活動を計画・実践していく。				
		「児童に【やればできる・伸びている・役立っている】ことを感じさせる声掛けや指導ができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3			「なかよし班活動などで、楽しく積極的に活動できた」の肯定的な回答が70%以上である。	3						
		「児童に【やればできる・伸びている・役立っている】ことを感じさせる声掛けや指導ができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2			「なかよし班活動などで、楽しく積極的に活動できた」の肯定的な回答が60%以上である。	2						
		「児童に【やればできる・伸びている・役立っている】ことを感じさせる声掛けや指導ができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1			「なかよし班活動などで、楽しく積極的に活動できた」の肯定的な回答が60%未満である。	1						
④新しい課題に対応した教育の推進	「児童が運動することを楽しむために、体育の授業や体育的行事、休み時間等の外遊びの奨励を実施できた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	教員の肯定的な回答は93%(中間評価比4%増)であった。体育の授業だけでなく、ランタイム(全校での持久走)や、遊ぼうデーなどを行い、児童の外遊びを奨励できた。また過ごしやすいつ時期も関係していると考えられる。今後日常的に運動を楽しもうとする児童を育成していく。	「体育の授業、体育的行事、休み時間などの外遊びで、運動を楽しむことができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が88%(中間評価比2%減)であった。2学期は、運動会や、ランタイム等があり、児童が外で体を動かす機会が多かったが、児童によって取組の差がみられた。来年度は、すべての児童が運動を楽しむことができるよう、活動を工夫していく。					
	「児童が運動することを楽しむために、体育の授業や体育的行事、休み時間等の外遊びの奨励を実施できた」の肯定的な回答が70%以上である。	3			「体育の授業、体育的行事、休み時間などの外遊びで、運動を楽しむことができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3							
	「児童が運動することを楽しむために、体育の授業や体育的行事、休み時間等の外遊びの奨励を実施できた」の肯定的な回答が60%以上である。	2			「体育の授業、体育的行事、休み時間などの外遊びで、運動を楽しむことができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2							
	「児童が運動することを楽しむために、体育の授業や体育的行事、休み時間等の外遊びの奨励を実施できた」の肯定的な回答が60%未満である。	1			「体育の授業、体育的行事、休み時間などの外遊びで、運動を楽しむことができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1							
⑤人権教育の推進と道徳教育の充実	「親切な行為や思いやりの意義を考える、よさを感じるような指導ができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	教員の肯定的な回答は87%(中間評価より13%減)であった。高い目標値や行動目標を設定したためできなかったと回答した教員もいた。「はむらの道徳科授業指針に基づく授業を行うとともに、相手の立場を考えたり、相手の気持ちを思いやりすること」を継続し、今後も、人権教育、道徳教育を推進し、「望ましい習慣の形成」ができるようにしていく。	「人に温かい心でかかわり、親切にすることができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が89%(中間評価比2%増)であった。なかよし班活動や、学級での活動の中で、友達や異学年の児童にやさしく接する場面が多く見られた。学校・保護者・地域で連携しながら、児童が望ましい習慣を身に付けられるようにしていく。					
	「親切な行為や思いやりの意義を考える、よさを感じるような指導ができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3			「人に温かい心でかかわり、親切にすることができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3							
	「親切な行為や思いやりの意義を考える、よさを感じるような指導ができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2			「人に温かい心でかかわり、親切にすることができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2							
	「親切な行為や思いやりの意義を考える、よさを感じるような指導ができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1			「人に温かい心でかかわり、親切にすることができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1							
⑥特別支援教育の推進	「チーム栄小で、連携して個に応じた支援ができた」の肯定的な評価が80%以上である。	4	4	教員の肯定的な回答は87%(中間評価より13%減)であった。体調を崩す教員も出たため、連携が十分にできなかったとの意見も見られた。校内委員会等を通して支援が必要な児童に対して共通理解を図り、学校全体での支援・指導等を行った。今後も、チーム栄小で、連携して個に応じた支援を充実させていく。	「自分や友達の良いところ、頑張っていることが、分かる」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が93%(中間評価比1%増)であった。肯定的な回答をした児童が多いことから、多くの児童が自己肯定感をもつことができていると考えられる。児童が自分のよさや友達の良いところを声掛けをしたり、活躍できる様々な場を設定していく。					
	「チーム栄小で、連携して個に応じた支援ができた」の肯定的な評価が70%以上である。	3			「自分や友達の良いところ、頑張っていることが、分かる」の肯定的な回答が70%以上である。	3							
	「チーム栄小で、連携して個に応じた支援ができた」の肯定的な評価が60%以上である。	2			「自分や友達の良いところ、頑張っていることが、分かる」の肯定的な回答が60%以上である。	2							
	「チーム栄小で、連携して個に応じた支援ができた」の肯定的な評価が60%未満である。	1			「自分や友達の良いところ、頑張っていることが、分かる」の肯定的な回答が60%未満である。	1							
⑦児童・生徒が楽しく通える学校の実現	「些細な兆候でも意識していじめの認知に努め、学校全体で組織的に解決できた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	教員の肯定的な回答は100%(中間評価と同じ)であった。教員は、児童観察を行い、いじめにつながる行動を見逃さず指導を行い、アンケートを毎月実施して小さいいじめから積極的に認知して、組織的に対応した。今後もアンケートに記載されない事案等があることを念頭に置き、日頃から意識して対応していく。	「学校は楽しい」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が84%(中間評価比4%減)であった。すべての「児童が楽しく通える学校」を目指し、アンケート調査や、日ごろの様子を観察等を通して、積極的にいじめを認知したり、安心して学校に通えるよう、学校全体で組織的に対応していく。					
	「些細な兆候でも意識していじめの認知に努め、学校全体で組織的に解決できた」の肯定的な回答が70%以上である。	3			「学校は楽しい」の肯定的な回答が70%以上である。	3							
	「些細な兆候でも意識していじめの認知に努め、学校全体で組織的に解決できた」の肯定的な回答が60%以上である。	2			「学校は楽しい」の肯定的な回答が60%以上である。	2							
	「些細な兆候でも意識していじめの認知に努め、学校全体で組織的に解決できた」の肯定的な回答が60%未満である。	1			「学校は楽しい」の肯定的な回答が60%未満である。	1							
健やかな成長を支える教育環境の整備	⑧児童・生徒理解に基づく指導体制の構築	「校内で情報共有を図り、児童理解に基づく指導ができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	教員の肯定的な回答は100%(中間評価比10%増)であった。教員は、日頃から学年会等で児童の活動や様子などについて、情報共有を図り、児童理解に努めている。また「挨拶プラス一言」などを意識的に行うことを通して、児童が相談しやすい雰囲気づくりに取り組んだ。来年度も継続して行っていく。	「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が88%(中間評価比2%減)であった。学級ごとの結果を確認し、児童への指導や声掛け、称賛などを工夫、充実できるようにした。今後も、学年間、学校全体で情報共有を行いながら、児童理解を図り、適切な指導・支援を通して、児童の健やかな成長を促していく。				
		「校内で情報共有を図り、児童理解に基づく指導ができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3			「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の肯定的な回答が70%以上である。	3						
		「校内で情報共有を図り、児童理解に基づく指導ができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2			「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の肯定的な回答が60%以上である。	2						
		「校内で情報共有を図り、児童理解に基づく指導ができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1			「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の肯定的な回答が60%未満である。	1						
	⑨OJTを中心とした校内研修体制の確立	「校内研究や校内研修会・学年会等を通して、自分の学びを深めたり、実践したりすることができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	教員の肯定的な回答は93%(中間評価比7%減)であった。教員の強みを生かしたカフェ研は好評であったが、「ウェルビーイング」というテーマについての共通理解が難しいとの意見もあった。自分で個人研究の課題を設定する方式はよかった。来年度は、体育健康教育推進校2年目であるので、研究授業や研究テーマ等については、再度検討して取り組んでいく。	「地域に愛着をもっている」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が84%(中間評価比2%減)であった。学級によって肯定的な回答の差が大きいことが分かった。全校で、羽村学(郷土学習)、人間学(キャリア教育)をはじめ、各教科や英語などの内容において地域の教育資源や外部人材等を生かした豊かな体験と学びの機会を系統的に設定していく。				
		「校内研究や校内研修会・学年会等を通して、自分の学びを深めたり、実践したりすることができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3			「地域に愛着をもっている」の肯定的な回答が70%以上である。	3						
		「校内研究や校内研修会・学年会等を通して、自分の学びを深めたり、実践したりすることができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2			「地域に愛着をもっている」の肯定的な回答が60%以上である。	2						
		「校内研究や校内研修会・学年会等を通して、自分の学びを深めたり、実践したりすることができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1			「地域に愛着をもっている」の肯定的な回答が60%未満である。	1						
		「地域の教育資源や外部人材を活用した豊かな体験と学びの機会を設定することができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4			4	「地域に愛着をもっている」の肯定的な回答が80%以上である。			4	児童の肯定的な回答が84%(中間評価比2%減)であった。学級によって肯定的な回答の差が大きいことが分かった。全校で、羽村学(郷土学習)、人間学(キャリア教育)をはじめ、各教科や英語などの内容において地域の教育資源や外部人材等を生かした豊かな体験と学びの機会を系統的に設定していく。		
		「地域の教育資源や外部人材を活用した豊かな体験と学びの機会を設定することができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3										
⑩保護者や地域住民の協力・参画	「地域の教育資源や外部人材を活用した豊かな体験と学びの機会を設定することができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2	4	様々な場面で地域の人材を活用することができた。学校運営協議会の方々、地域の方々の協力・参画を得て、来年も学びの機会を充実させていく。	「地域に愛着をもっている」の肯定的な回答が70%以上である。	3	4	児童の肯定的な回答が84%(中間評価比2%減)であった。学級によって肯定的な回答の差が大きいことが分かった。全校で、羽村学(郷土学習)、人間学(キャリア教育)をはじめ、各教科や英語などの内容において地域の教育資源や外部人材等を生かした豊かな体験と学びの機会を系統的に設定していく。					
	「地域の教育資源や外部人材を活用した豊かな体験と学びの機会を設定することができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1			「地域に愛着をもっている」の肯定的な回答が60%未満である。	1							
	学校の特色	「英語教育でコミュニケーション能力の素地又は基礎等の育成を図れた」の肯定的な回答が80%以上である。			4	4			教員の肯定的な回答は90%(中間評価比と同じ)であった。指導方法や声掛けをALTやコーディネーターと相談し、工夫、改善してきた。また、英語地域講師やALTを活用して、英語指導の教員研修を定期的実施したことが、教員の肯定的な回答につながったと考えられる。	「英語の授業では、すすんで聞いたり、話したりすることができると思う」の肯定的な回答が80%以上である。	4	3	児童の肯定的な回答が72%(中間評価比10%減)であった。中間評価を基に、各学級への指導方法や、声掛け等を改善したが、児童の肯定的な回答がさがってしまった。児童がすすんで聞きたい、話したいと思い、実践できるよう、今後も、担当教員の指導方法や声掛け等の改善を行っていく。
		「英語教育でコミュニケーション能力の素地又は基礎等の育成を図れた」の肯定的な回答が70%以上である。			3					「英語の授業では、すすんで聞いたり、話したりすることができると思う」の肯定的な回答が70%以上である。	3		
「英語教育でコミュニケーション能力の素地又は基礎等の育成を図れた」の肯定的な回答が60%以上である。		2	「英語の授業では、すすんで聞いたり、話したりすることができると思う」の肯定的な回答が60%以上である。	2									
「英語教育でコミュニケーション能力の素地又は基礎等の育成を図れた」の肯定的な回答が60%未満である。		1	「英語の授業では、すすんで聞いたり、話したりすることができると思う」の肯定的な回答が60%未満である。	1									